

愛知の博物館

No.97



戦争と平和の資料館 ピースあいち

先の戦争から長い時間が過ぎ、戦争体験者は少なくなり、戦争の資料や遺品も失われていきます。戦争という20世紀の負の遺産を、歴史の教訓として次代に伝え、平和のために役立てようと考える多くの人々の力が結集し、『戦争と平和の資料館ピースあいち』は開館しました。

戦争が残した教訓を伝え、市民の平和への思いを発信する場として、そして伝えられたことや学んだことをさらに次の世代に繋いでいく役割を果たす施設でありたいと考えています。また、このピースあいちを訪れた人が、平和のために一歩を踏み出す契機となるような施設でありたいと思います。

目 次

平成24年度愛知県博物館等職員研修会の報告	2
第37回東海三県博物館協会研究交流会の報告	3
平成24年度部門別研修会の報告	
教育・普及部門	3
保存・修復部門	4
新規加盟館のご紹介	6

平成24年度

愛知県博物館等職員研修会の報告

平成24年度愛知県博物館等職員研修会は「博物館と地域連携」をテーマに、平成24年10月26日(金)、中部大学リサーチセンター及び民族資料博物館において開催された。なお、今回の研修会は、当協会と愛知県教育委員会との共催であった。参加者は46名で、2つの講演と民族資料博物館の展示視察の実地研修を行った。

講演1.都市文化におけるミュージアムの役割

講師:蓑 豊 氏(兵庫県立美術館館長)

蓑氏は、年間約150万人の入館者の金沢21世紀美術館を立ち上げられ(現在名誉館長)、現在は兵庫県立美術館の館長である。

金沢21世紀美術館準備室では、逆風の中で高い目標値の設定、市民への認知度をあげる手法などを紹介。「子どもが好きそうな作品」を制作依頼し、子どもたちが「現代美術の楽しさ」を発見する仕掛け、その他、地元との連携によって広がった経済波及効果の例も紹介された。

また、蓑氏の実践としてフェルメールの「真珠の首飾りの少女」「男鹿和雄」「水木しげる」等の展示企画について紹介があった。

その他、「新たな美術館の近代建築によって、人が集まる外国の事例」「街全体をデザインしたアメリカの事例」などスライドを用いて説明された。何れも、具体的な事例を多数紹介していただき、大変理解し易い内容であった。

講演中、我々に対して、「ちょっとした仕掛けの工夫でリピーターを増やし、市民がサポートしている施設にして下さい」というメッセージをいただいた。

(講演時間1時間15分)



蓑豊氏（兵庫県立美術館館長）

講演2.「みんぱくから民博へ」

講師:宇治谷 恵 氏

(中部大学民族資料博物館副館長)

大阪の国立民族学博物館「みんぱく」での、地域、学校、社会との連携について実践紹介。また、動物園や水族館との連携展示、触っていい展示コーナー、「みんパック」という学校に貸し出すパッケージなどの例が紹介された。

中部大学民族資料博物館開館では、建物、設備、資料の充実の他、学校教育との連携を重要とした。社会連携では他の研究機関、国内・国外の博物館との連携、あるいは大学との連携、さらに社会貢献としての身近な地域・コミュニティとの連携を重要としている旨の紹介があった。

専門のコミュニケーションスタッフやボランティアスタッフを充実させて対応をまかせた方が効率的であり、博物館の人とモノと、地域との連携を相談できるコーディネーターが必要と提案された。(講演時間1時間5分)



宇治谷恵氏（中部大学民族資料博物館副館長）

講演後、中部大学民族資料博物館のシルクロード資料、パプア・ニューギニア資料、中南米資料、多目的室・体験室、企画展を視察した。



(鈴木雅夫 名古屋市科学館)

第37回

東海三県博物館協会研究交流会の報告

- 日 時:平成24年11月29日(木)13時30分～
会 場:岐阜県美術館
参加者:57名(うち当協会21名)
1 挨拶 岐阜県博物館協会 若宮会長
2 講演 「観光商品としての博物館・美術館」
近畿日本ツーリスト㈱地域誘客事業部課長
池田幸二氏
観光産業、旅行スタイルの変化、利用者ニーズの把握等と博物館・美術館との関わりについて旅行業者の立場から説明。質疑応答も活発に行われた。
3 事例発表
「エンターテイメントな教養空間への挑戦」
大垣市奥の細道むすびの地記念館 学芸員
大木祥太郎氏
観光と交流のゲートウェイとして建設され4月に開館したばかりの施設。学術・まちづくり・観光の3要素を担う。観光協会と学芸の連携など、具体例を紹介。
4 閉会挨拶 三重県博物館協会 中村会長
5 観察 岐阜県美術館「30年の歩み」展見学



講演会の様子

平成24年度部門別研修会の報告 <教育・普及部門研修会>

平成24年度教育・普及部門研修会は、平成25年2月2日(土)、徳川美術館講堂を会場に開催しました。参加者は、歴史・美術分野の方々を中心に30名で、大学院で学校教育と社会教育の連携をテーマとして学んでいる学生2名も参加しました。

近年、博物館には教育普及の役割が重要視されています。見学者の興味を引き出して自発的な学習へ結びつけるため、学芸員には教育プログラムの開発能力や学習者とのコミュニケーション能力が求められています。こうした現状を踏まえ、今年度の研修テーマは「学習者の興味を引き出す方法」とし、2名の講師をお招きして事例報告・講演を頂きました。

浅井厚視氏(あま市教育委員会教育部次長)は、社会科教師として長年に亘り教鞭を執られ、近年では郷土検定などを活用して小中学生の歴史離れや郷土愛の育成に取り組まれています。こうした経験をもとに「郷土愛はふるさと検定から」というテーマで事例報告をして頂きました。郷土検定は問題の作成や検定の実施だけでなく、検定の基礎となるテキストの開発、テキストを用いた授業や講座を含めて構成されていること、また、この取組が発展し、ケーブルテレビや商工会議所などと連携したクイズ選手権となり、子どもたちが目標を持ち、主体的に学習を進められるようになったとのことでした。また、市民活動団体主催の子ども向け講座では、土器や古文書の実物を用い、実物を見たりにおいを嗅いだりすることで、歴史を身近に感じさせたり、五感を刺激して自由な発想や意見が出るように工夫されていることを伺いました。



浅井厚視氏 (あま市教育委員会教育部次長)

次に、福のり子氏(京都造形芸術大学芸術表現学部アート・プロデュース学科教授)は、ニューヨークで16年間展覧会を手がけた経験をもとに、対話型鑑賞教育「ACOP」を研究展開され、今回は「みることから始まる、展示品と来館者の対話」というテーマで講演頂きました。ACOPとは、「ART COMMUNICATION

PROJECT」の略で、「みる、考える、話す、聞く」という人が有する基本的な能力を用いた美術鑑賞方法で、意識を持ってすみずみを見て、直感を大切にしながら考え、自らの感情や疑問をグループのメンバーに伝え、他のメンバーの意見に耳を傾ける、こうした一連の行為を通して芸術作品を鑑賞する手法のことです。そして、この手法は芸術作品の鑑賞にとどまらず、科学映像の鑑賞など、他分野への応用の可能性を指摘されました。質疑応答では、その具体的な活用について触れられ、博物館の全ての作品や資料を紹介するのではなく、一つのものに絞って見学者にじっくり見て関心を持つてもらうこと、それが見学者の自発的な学習につながることを伺いました。



福のり子氏
(京都造形芸術大学芸術表現学部アート・プロデュース学科教授)

お二人のお話はそれぞれ長年の経験に裏打ちされたもので、今後の活動に大きなヒントを頂いたように感じました。

最後に、本研修を開催するにあたり快く講師を引き受けた頂きました講師の皆様、会場をご提供頂きました徳川美術館、そして参加者の皆様へお礼申上げます。

(服部一宏 弥富市歴史民俗資料館)

〈保存・修復部門研修会〉

平成25年2月19日(火)、岡崎市美術博物館において、三河地域研修会(保存修復部門)を「収蔵品を守るために」と題し開催した。愛知県でも大地震の発生が予見されるなか、研修テーマは展示や収蔵している収蔵品を地震災害等から守るために実践できる内容を免震装置のメーカー、美術館・博物館の具体的な事例から学ぶことを目的として設定した。各館が身近に感じている課題とあり、34名が聴講した。

メーカーの製品紹介

東日本大震災以降、美術・博物館に関する製品を製作する各メーカーでは実際の地震において有効な機能・性能の研究が進められ、新製品なども発売されている。そのような免震装置製品を製作している金剛株式会社、ノムラテクノ株式会社の2社から製品を実際に見ながらの紹介があった。水平方向へ搖れを逃す免震台や既存の可動台等に取り付けて使用できる免震装置など、2社の異なる製品を目にしながら性能や使用法を聞くことができ、それぞれの製品の特性を詳しく知ることが出来た。また、金剛株式会社から最近の収蔵庫の動向についてもメーカーの立場から話があった。



メーカーによる製品のデモの様子



メーカーによる製品の性能説明の様子

3館の事例報告

県内の3館より、各館での展示室・収蔵庫での収蔵品を守るための取組みや課題について講演して頂いた。徳川美術館の吉川美穂氏には「徳川美術館の地震対策—展示室と収蔵庫—」と題し、展示室・収蔵庫での取組みの事例を紹介して頂いた。展示品を固定し、重心を下げ地震の揺れから守る手法や収蔵庫内の保管法など、先人の知恵に学ぶ・過去の事例に学ぶ・できる事から少しずつマイナーチェンジ、という視点から収蔵品を守るために改善を重ねている取り組みは大変参考になる内容であった。



吉川美穂氏による発表の様子

愛知県美術館の大島徹也氏には、「愛知県美術館の地震対策—収蔵庫と展示室から」と題し、箱に保管されている品、引出収納、額装の絵、彫刻等立体物の収蔵庫での日用品を転用した地震対策、展示室での様々な地震対策への取組みをご紹介頂いた。また、愛知芸術文化センター10階に位置するという同館の特性から、東海地震警戒宣言発令時退館マニュアルを作成中であるということも興味深い報告であった。



大島徹也氏による報告の様子

岡崎市美術博物館の堀江登志実氏には、「岡崎市美術博物館における収蔵庫管理の取り組みと 課題」と題し、主に収蔵庫の現状と普段の取組み及び課題についてお話し頂いた。同館の収蔵庫内の温湿度は中央管理室で監視し、置き型計測器でも定期的にチェックするなど、学芸員自らの目と体感で管理することを努めていることや、同館は市内寺社や個人からの寄託品が多く、収蔵品が多岐に亘るため、収蔵庫での資料管理で様々工夫をされていることや今後改善を図るべき問題点などをお話し頂き、収蔵庫について改めて考える機会となった。



堀江登志実氏による発表の様子

まとめ

今回は、メーカーから地震対策の免震装置や収蔵庫の動向についての紹介を、3館の美術館・博物館からは日々実際に取組んでいる具体的な事例報告を通して収蔵品を災害等から守る手法を学んだ。

メーカーの製品の持つ特性・有効な使用法を知ることで、免震装置の有効性を改めて認識することができた。また、事例報告して頂いた3館の具体的で詳細な事例を知ることで、今後の地震対策・資料整理に取り組む上で大変参考になった。各館の発表にある取組みはどれも難しいものでは無く、すぐに実践可能な事ばかりであったが、各館が其々の館の状態に合った小さな改善を積み重ねてゆくことが収蔵品を守ってゆく唯一の方法であると感じた。

最後に、ご多用のなか今回の発表を御快諾いただいた皆様、並びに会場を御提供くださった岡崎市美術博物館へ御礼申し上げる。

(後藤さち子 昭和美術館)

新規加盟館のご紹介

平成24年度、当会へ新規加盟されました1館の概要をご紹介いたします。

■戦争と平和の資料館 ピースあいち

ピースあいちには、展示室のほか、図書コーナー、ビデオコーナー、交流スペースがあり、図書やビデオを自由に見ることができます。交流スペースではミニ・コンサートや朗読会などができます。平和を愛する市民の交流の場です。ぜひご利用ください。

【開館時間】11:00～16:00

【休館日】毎週日・月曜、年末年始など

【入館料】大人300円、小中高生100円

【所在地】

〒465-0091

名古屋市名東区よもぎ台2-820

電話・FAX: 052-602-4222

URL: <http://www.peace-aichi.com/>



【駐車場】有料2台(300円/回)、1台(障害者専用・無料)

【アクセス方法】

- ・JR・新幹線・名鉄・近鉄「名古屋」駅より、地下鉄東山線「一社」駅下車1番出口北へ約1km、タクシーまたは徒歩約15分
 - ・地下鉄東山線「上社」駅より循環バス右回り、「じあみ」下車西へ約200m徒歩約3分
 - ・地下鉄東山線「星ヶ丘」駅よりバス「猪高車庫」行き、「平和が丘」下車東へ約600m徒歩約9分
-

「愛知の博物館」 No. 97

発 行 日 平成 25 年 5 月 10 日
編 集・発 行 愛知県博物館協会

〒460-0008
名古屋市中区栄二丁目17番地の1
名古屋市科学館内
TEL (052) 201-4486 FAX (052) 203-0788